

タイトル THE METANITA FREE ENERGY MACHINE  
THE SWISS M-L CONVERTER

著者 Donald Kelly  
P.O. Box 11422  
Clearwater,FL 34616

Patrick Bailey  
P.O.Box 201  
Los Altos, CA 94023-0201

和訳 1994-0720 新規 T. Sugiyama  
2015-0321 全般的に見直した

【概要】

スイスの M-L Converter は、きわめて高い効率の出力性能を実現するために、動的な構造とソリッドステートの構造を組み合わせた、未知の複合的なエネルギー変換装置の実例です。

機械的な静電発電機が発電機とモーターの両方として作動するので、EMF（起電力）のフィードバックは自己推進力を発生し、動作が持続するようになっています。

装置は連続動作が可能であり、約 220V および約 10A の直流電流で 3 ～ 4kW の電力を安定して発生させます。

宗教団体メタニタは、人類がこのように進歩したエネルギー技術を受け入れる準備ができていないと判断しているため、それ以上の情報やこの装置の詳細を外界に提供しないことと主張しています。

【イントロダクション】

宗教団体メタニタは 1960 年に公式に設立されて、拠点はスイスに置かれています。メタニタ内の研究者チームは完全に自主的に研究を行っており、また、教団の財源によっていかなる外部の援助なしで、資金調達されています。

教団のメンバーは過去 25 年間にわたり、「テスト・ディスタティカ」と呼ばれる非常に進歩したフリーエネルギー装置を開発しました。

1983-1984 年の間、少数の選ばれたヨーロッパ人および合衆国の科学者がメタニタを訪問して、これらの装置を調査し、テストすることができました。

アルバート・ホイザーを含む他の 3 グループは、1986 年 2 月 14 日に 4 時間の間、これらの装置を調査しました。

直流 10A、約 220V で、3 ～ 4kW を連続的に供給する大型の装置があったことが確認さ

れました。装置は「スイス M-L コンバーター」または「メタニタ・フリーエネルギー・マシン」として知られており、それは「King of the Converters」と呼ばれています。

この呼び名は、装置を調査した様々な科学者のレポートから判断すると、妥当だと思われる。

スイス M-L コンバーターは動的、回転、静電的、ソリッドステートのユニットなどから構成されています。

ウィムズハースト型の静電発電機を変形させた動的な部分の構成は互いに逆方向に回転する2枚のディスクが向かい合ったものです。これらは初期静電高圧を発生し、そしてソリッドステートユニットが高電圧を実用的な電圧と電流に変換します。

ディスクが安定して回転し続けて、高電圧の出力を供給し続けるために、システムの前部にある小型のフィードバック回路はディスクを自動運動させるために起電力を供給します。

高電圧出力は、装置の両端にある2個の大型のシリンダのような双子の静電的な変圧器によって実用電圧に変換されるようです。

図1の写真は、大型の装置のひとつです。

ごく一部の科学者はこの装置の存在を知っています。この装置について書かれた彼らの調査論文は質の高い文書であり、これらの装置を操作して試験結果を唯一かつ真の証拠として明らかにしています。

いくつかの試みにより、スイス M-L コンバーターは複製されてきましたが、現在まで、すべてそれらの試みは成功していません。

## 【背景】

(1985年5月に出版された文献1から引用し、解説)

このコンバーターのプロトタイプは5回にわたり、ドイツ重力場エネルギー学会(GAGFE)のメンバーによって詳しく調査されました。このうち2回は1984年の10月20日と10月28日に行われました。

この装置の他に1、2台以上の装置が1982年以来作動しており、その電力で5500平方フィートの温室を数基保温させています。2600ftの高度で、しかも冬季においてです。

調査者達にとって、それは息をのむような経験でした。

装置は非常に面白い特性をいくつか持っています。

第1に、それは普通に使われるどんな電気製品をも作動させるほどで、230Vで3～4kWを発電します。

第2に、約50rpmでゆっくり回転する誘導ディスクの推進力(回転力)のエネルギーは重力歪場から直接引き出しているように見えることです。つまり、いかなる種類の一次推進動力源がありません。

「これは、物理学を教える伝統の法則によっては、本質的に説明することができない」

とある研究者のレポートにコメントされています。

第3に、この種の重力エネルギー場コンバーターはベアデンとニーパーのタキオン場モデルを確立しています。

これは電子の電荷と質量を分離することができることを証明したことになります。コンバーターはそれ自身で連続的に作動します。唯一の消耗部分はディスクの中央にある2個のボールベアリングだけです。

このように生み出された電気のエネルギーのコストは信じられないほど安いです。

調査によると、いわゆる静電発電機のように見えるこの機械は機能的に組み立てられており、完全に対称で、約110cmの幅、45cmの深さ、60cmの高さ、(プラスチックカバーをのぞき)、20kgの重量でした。

すべてはすぐれた熟練した職人による手作りであり、我々の誰もが魅惑されるほど上品で美しく仕上げられている。発明者によって試作された最初の試験に使用された材料は、チョコレートの包紙、プラスチックの容器、釘、銅線、仕事場の残り物などでした。

作動する原理は昔から知られていました。

互いに逆回転する平行な2枚のアクリルプラスチックディスク(直径約45cm)の間にある空気分子は、摩擦による帯電を通じて活性化されたようになります。

これは、放電がそれらを均一にするまで、ディスクにたえず蓄電する作用を引き起こします。静電圧を要求量に制限するために、1枚のディスク上の静電荷が帯電した粒子、もう一方のディスク上の負に帯電した粒子が調整可能な格子電極によって別々に引き出され、エネルギーを集めるライデン瓶に送られます。

ディスクには、ファンの羽のような構造に50本のエッチング加工による格子電極が取り付けられており、その回転スピードは60rpmです。

このスピードは磁気パルスによって同期させられています。

これらの2枚のディスクに、強力な馬蹄形磁石を使用して蓄電する方法に秘密があります。馬蹄形磁石は共振回路の一部です。

作動後、たった数秒で300V、10Aの直流が端子から引き出せます。しかも何時間も、何年も摩耗なしに、連続的にです！

我々調査者は、交互に380V用定格の大電力の白熱電球や発熱素子を接続しました。輝かしい光は目がくらむほどまぶしく、発熱体は数秒で手で触ることができないほど熱くなりました。

このコンバーターが機能しているのを見た全ての人にとってこの光景は証拠となりました。これは、科学が進歩するために完全な改訂を経なければならないことを物語っています。

スイスフィールドエネルギー学会(SAFE)のツューリッヒ・アインシーデルン会議でMLコンバーターは800人の出席者(ヨーロッパを越え、合衆国から韓国まで)の前で息を呑むようなデモンストレーションが実施されました。

真空場エネルギーを電気のパワーに変換する実現可能性の証明は何より有益です。またこのスイスコンバータは 1983、1984 年に、ドイツ重力場エネルギー学会の数人の選ばれたメンバーによって詳しく調査されました。

この技術情報は、そのようなコンバータを製作するための基礎として共するのに、全て公開禁止の扱いとなりました。それは、限りのないエネルギーは、仲間のために愛と平和を実行し、不法利用と戦争に従事せないために社会的に制限されなければならないという理由からです。

(文献 1.からの引用と解説終り)

さらに、1986 年に訪れた後に書かれたアルバート・ホイザーによるレポートで、1987 年に英語に翻訳されたもの（これも文献 1.）から引用します。

比較的多くの人々がすでに技術を見たにもかかわらず、見せられた技術は理解されていません。誤解、悪い評判を避けて、またシステムの誤用の可能性を避けるために、私は自分自身のある厄介な決断を下さねばならなりませんでした。

私たちは（調査会の）主催者への質問に対して次のような回答を受け取りました。

彼らは自らを原始キリスト教徒と名乗っています。団体は、およそ 200 人をおかかえ、聖書と共に生き、自分達の学校、機械工場、市場、撮影所などを保有しています。

彼らが約 25 年間保ち続け開発された技術を出版したがらないわけがここにあります。特に、彼らは誤使用や兵器工業への可能性を指摘しています。

装置は手動による起動でなければならず、その後は自励となることはよく知られていません。これは図番 3279（図 2 参照）に納められています。

性能は一部分は知られているが、類似のデータを私からも述べることにします。

私たちが訪問している間、大型の装置は 1000W のグローランプで試験されました。また、小型の装置もあり、これも始動させ、2 時間作動していました。私たちはこの装置を測定器のみを用いて調べました。このことはいかなる抵抗も装置に負荷しなかったということの意味します。私は小型の装置の出力が 200W くらいであろうと判断しました。

(文献 1.のホイザーのレポートからの引用終わり)

## 【解説】

有益な情報では、タキオンコンバータと呼ばれる大型のスイス M-L コンバータに関する記載が系統的に述べられている。コンバータシステムの構成を説明した図解を図 2 に示します。

GAGFE のメンバーは 1984 から 1988 までの間に 5 回に分けてこのシステムを詳しく調べています。

大型のコンバータと 2 基の小型ユニットは 1982 年以来、作動し続けています。これらの装置は 20 年間にわたり開発されてきたことを報告する価値があります。

1987 年においてコンバータの暫定的な最初の分析の中で述べられた物理的な原理仮説のいくつかは、もはや却下されつつあります。たとえば Searl と Echlin の効果のどちらも、もはや ML コンバータの動作を説明する活きた原理であるようには思われません。

図 1、2 で説明した大型の装置構成の仕様、寸法と、推測による手短な操作法を以下に述べます。(文献 2～6)

より十分に装置の操作法の過程を説明する相補的な理論が文献 7 に述べられています。

## 【仕様と寸法】

3kW の定格のモデル・・・DC230V、約 13A の一定出力

寸法・・・幅 110cm(43.2 インチ)、奥行き 45cm(17.6 インチ)、高さ 60cm(23.6 インチ)

重量・・・約 20kg(44 ポンド)

始動方法・・・2 枚の静電ディスクを手で回転させる

運転中・・・外部からのパワー入力は全く必要とされない

## 【ウィムズハースト静電発電機ユニット (類似した装置としての紹介)】

向かい合って回転するディスクは、高周波・高電圧の静電起電力を供給します。

ウィムズハーストの放電ギャップ(0.1 から 1.0 インチの範囲で変化できる)しだいで、起電力は 9kV から 77kV にわたって可変です。

発電機から供給される電流は極端に少なく、0.001A から 0.002A のオーダーであることは、よく知られています。

ディスク上のアルミニウムのセグメントは、電磁妨害作用を防止します。電磁妨害は鉄や鋼のセグメントを使うと生じるかも知れません。

このようなウィムズハースト発電機は最大出力で 75kV,150 W を供給できます。入手できる写真によると、ディスクの直径は 20 ～ 24 インチと見積もられています。

### 【Poggendorff モーターのブラシ (M-L コンバータ構成部分)】

Poggendorff の原理(1870 年)は、ディスクに対して斜めにかつ等間隔で配置され、電荷を分与された静電ブラシが非対称な力を引き起こすことの発見に基礎が置かれています。

手動による始動の後、この力は独立して、ディスクに回転力を与えます。(訳註:「フリーエネルギー技術開発の動向」 p.203 参照、または静電気ハンドブック参照)

動力に応用したブラシの集合は、ディスクを連続的に回転させるために、2 つのウィムズハーストのディスクが持つ静電容量から静電気の流れを得るのに使われています。楕円形ブラシをディスクの電極に接触させるような旧型の Poggendorff の配列とは異なっており、M-L マシンの駆動電極は非接触のようです。

図 2 に示されるように、6 個の非接触ブラシが使われているようである。つまり、ディスク面の水平線に沿って"集電電極"が 2 つ、残りはディスクの"駆動電極"が 4 つです。

### 【ライデンびん (M-L コンバータ構成部分)】

これらは 1880 に、Sir Oliver Lodge によって指揮されたライデンびん送信機の実験に基礎を置くとされています。

Wimshurst 静電発電機に接続させられたとき、瓶は 2 個のユニットの間に高電圧発振の起電力を生み出します。

Lodge のオリジナルの発想による 2 つのライデンびんの中の静電送信ギャップはソリッドステートの磁束増大装置を貫通する導電路に置き換えられています。

### 【ソリッドステート磁束増大装置 (意味不明)】

この装置は、大型の馬蹄形磁石、小型磁石コイル、中空のシリンダー状永久磁石、様々なキャパシター、および、ある種の細長い結晶の配列で構成されていると考えられています。このコンバータ (3kW) の出版された仕様から、この構成による増幅比は、静電発電機が 0.020 アンペアのオーダーで供給すれば、20:1 となるはずですが。

この磁束増大装置は電流増幅により、電力の増幅を行うと推測されます。それが起こるようにはみえる効果は、磁石の内側に使われている物質内での、電子なだれ降伏現象のたぐいの効果であるかもしれません。

磁石は非常に高い磁束密度を持ち、これらが形成する磁場のなかで、構成部の他の部分と結晶ダイオードの間に起こる相互作用と共鳴は全く理解されていません。

ライデンびんは、システム内で双子の大型キャパシターとしても作用するかもしれません。ライデンびんの構成内容も、磁束増大装置のようなものであるかもしれず、もしかすると円柱磁石に巻いたバイファイラー巻きを含んでいるかもしれません。

導電路は、導体内部での自己誘導による一様な交流の発振を可能にします。

永久磁石とコイルの分離配置と閉磁路により、磁束増大によって電流が発生します。

2 つのライデンびんに接続された電子の回路共振周波数はディスクの回転速度を制御す

るのでしょうか。

#### 【ビデオテープ】

メタニタ教団の精神的目標や装置の設計・操作・テストの概要を述べた本レポートの発表の間、ビデオテープが上映されました。

#### 【誘惑する否定見解】

文献 8.の「エネルギーテクノロジー分類」の一覧表によると、スイス M-L コンバーターは、負荷に接続されたモーターへの電気入力を有する R-III型に似ているかも知れません。しかしながら、詳細技術情報の不足により、現時点ではこの装置を直接に分類することは不可能である。

ウィムズハーストや他の誘導装置は本質的に"DC"の静電気装置であるが、それらの出力端子間を火花放電が発生するときだけ、"AC"になります。

"結晶のダイオード、永久磁石 etc"を含む構成によって、このような装置から完全に整流された直流を得ることは非常に興味深いです。

また、文献 9.の O.Jefimenko 教授の静電モーターの記事は次のように述べています。

「生じる非対称の力は(Poggendorff の)モーターを自発起動させます。」

さらに、Poggendorff は彼の静電モーターからどうにか 50% の効率を得ることができました。これは、ありふれたウィムズハースト発電機と同程度です。

屋外で実行されたテストについては何も指摘されていません。

前記に述べたように、ランプやヒーターが実際の証明として実行された唯一のテストであることは、不運です。

初期の誘導装置による高周波・高電圧放電ですら、フィラメントを加熱することはもちろんのこと、白熱させたり、熱を放ったりすることもできることは周知のことです。

この考慮により、平均消費電力を示すという意味で白熱電球を使用することは、非常に疑いのもととなります。(訳者註：著者はこのようなことは第三者にトリックとして疑われる可能性があるということを言っている。屋外の何も電源のないところで、検証することができなかったことを残念に思っているようだ。)

また、装置の電力を増大させるために、馬蹄形磁石等により磁束増大効果を使用するというのも疑いのもととなります。

一般に通用する考えでは、ひとつは犠牲にして電流か電圧のどちらか一方を増大させることができる。電力は一定のままか、ロスが生じます。

(訳者注：認知されていない原理を応用した装置を説明するのに意味不明の造語を用いて説明するとかえって相手にされなくなる傾向があるので、いきなり「磁束増大」や「タキオン」などという言葉を用いるよりも極力平明な説明をすることが重要だと思われる。)

## 【結論】

(文献 10.の英語ナレーションのビデオによるメタニタ情報フィルム"テストディスタティカ"からの引用開始)

メタニタは代替エネルギー源と進歩したテクノロジーの問題に関わっています。このテクノロジーは自然に内在した力を開発し、いかなるネガティブな方法による自然環境のバランスを乱すこともなく、人類の利益のためのエネルギー源を開くことに適しています。

人が発明したどんなテクノロジーも遅かれ早かれ役に立つべきである。この条件はいかなる方法でも自然に対抗すれば果たされません。

この驚くべき装置には、未知の自然力が潜んでおり、他にこのようなものはありません。自然力は人類が持っている知識と同様の最も偉大なパワーの源です。そしてそれはなおも、最も高い敬意と信頼で近づく者たちにのみ示される多くの秘密を隠しています。

自然力を理解し、その声に気づくために、沈黙と孤独を経験することを受け入れる者は、前述のテクノロジーに関する知識を得ることができます。

この装置に関する多くのことを物理学者に教育することは不可能かも知れないし、ことによると狂気の沙汰に匹敵します。へたをすると説明を受けた物理学者は、装置の説明に用いられた概念を軽蔑するかもしれません。我々ができることは、大ざっぱに装置の機能とさまざまな部品の特性を説明し明らかにするために、部分的に伝統的な物理学の専門用語の概念を適用するだけです。

確立された科学が、非常に基本的な概念のいくつかを変更し、廃棄してきたことをすでに何度も強いられてきたことを思い出してください。ガリレオ・ガリレイの一例を考えてください。われわれ人間社会のほとんどは今日の確立された科学が受け入れ難いような真実を調査し発見した魔法使いやマジシャンのような人を非難します。

本の知識は間違っていないかもしれませんが不完全であり、それ故に誤った結論を導く可能性があります。我々は、数多くの新しい事実と知識を明きらかにする新しい時代の中にいます。

現代の科学の壁はあまりにも厚いが、ちょうど昆虫の幼虫が脱皮するように、打ち破るべきです。この壁はやがて、真実への変容を許すでしょう。そしてついにこの世の知識の限界と目的地に到り、ちょうど昆虫の成虫が誕生するときのように光輝く美の普遍的な宇宙と制限のない精神科学が人類を進化させるための神の恵みと祝福を与えるでしょう。

人の普遍的な発展がその地を発見すると信じたいです。しかし、これは人類が万物の創造の本当の役割に気づき、本当の使命を再び知るようになったとき、初めて可能になるのです。なぜならば、宇宙全体は普遍的な機能と神の意志と言葉による創造物と正確に構築された秩序の中で機能しているからです。

それ故に人類は創造の全体とあらゆる部分において有効な宇宙の法則を認め実現しなければなりません。

しかし、権威主義の道への行動によって神の命令を置き去りにし、それがこの惑星上の全ての不調和と悪を引き起こす実際の原因になるという厳しい事実があります。

不幸にも支配組織が人々を困難な生活設計をもたらしあらゆる自由な精神的な向上を不



可能にするということを目指しています。科学技術の業績は利益と生活様式の保存のために利用される代わりに、破壊と殺戮のために不用意かつ無責任に乱用され、人類にふりかかる呪いになっています。

これらの事柄全てを変革するにあたって、新技術（仮にそれが地球環境衛生的であったり、また緻密なことであっても）の育成はまだ十分ではありません。

現在の状態を変化させることについて、悪の根本的原因に深く絶望する者もいる。この悪原因とは今の人類の思考形態であり心のありかたなのです。

古代の神の掟は今日でも有効であり、人類が進むべき道を示してくれています。このことは予言者ミカによって次のようにはっきりと語られています。

神は何がよいものであるかをあなたに語った。

「さあ、あなたの神への要求は何ですか？」

「ただ正しく行動し、忠誠を愛し、あなたの神の前を賢明に歩くことです。」

(文献 10 "Thesta-Distatica" からの引用終わり)

## 【結び】

本装置の研究と審議はまだ始まったばかりです。

未来のテクノロジーの方向付けの選択権は我々のものです。

【参考文献】

1. Nieper, Hans A., "Revolution in Technology, Medicine, and Society -Conversion of Gravity Field Energy," MIT Verlag, Oldenburg (English Translation), pp 359-362, May 1985, ISBN 3-925188-07-X (available from blkstores or Tachyon Energy Research, 9554 W.Olympic Blvd, Beverly Hills, CA 90212, (213) 286-2940).
2. Kelly, D., "Free Energy - The Final Solutions," Tri-State Press, (c/o K. MacNeill), P.O. Bod 1866, Clayton, GA 30525
3. Marinov, Stefan, "The Thorny Way of Truth - Part V," from Parts I thru VIII, International Publishers, East- West Morrellenfeldgasse 16, 8010 Graz, Austria.
4. "More About the Swiss M-L Converter: Pros and Cons," Magnets Magazine, pp 19-26, December 1988.
5. Space Energy Association, February 1991 Newsletter, P.O.Box 11422, Clearwater, FL 34616.
6. Future Technology Intelligence Report, Vol 2, No 3,537 Jones Street, Suite 1606, San Francisco, CA 94102.
7. Bearden, Lt. Col. T. E., "AIDS: Biological "Warfare," Chapter 4, "Extraordinary Physics," 1988 (available from the Tesla Book Company, 2521 Palma Drive, Ventura, CA 93003, (805) 646-3371).
8. Hathaway, G.D., "Engineering Non-Conventional Energy Systems," Proceedings of the 1986 International Tesla Symposium, International Tesla Society (available thru High Energy Enterprises, Inc., PO Box 5636, Security, CO 80931, (719) 475-0918).
9. Strong, C. L., "The Amateur Scientist," Scientific American Magazine, October 1974, pp. 1141-1144.
10. Methernitha, "Informationsfilm Thesta-Distatica: Sound Track Trancription," Tagungsband Proceedings, Internationaler Kongress fur Freie Energie, Einsiedeln, Switzerland 1989, ISBN 3-950025-1-8.